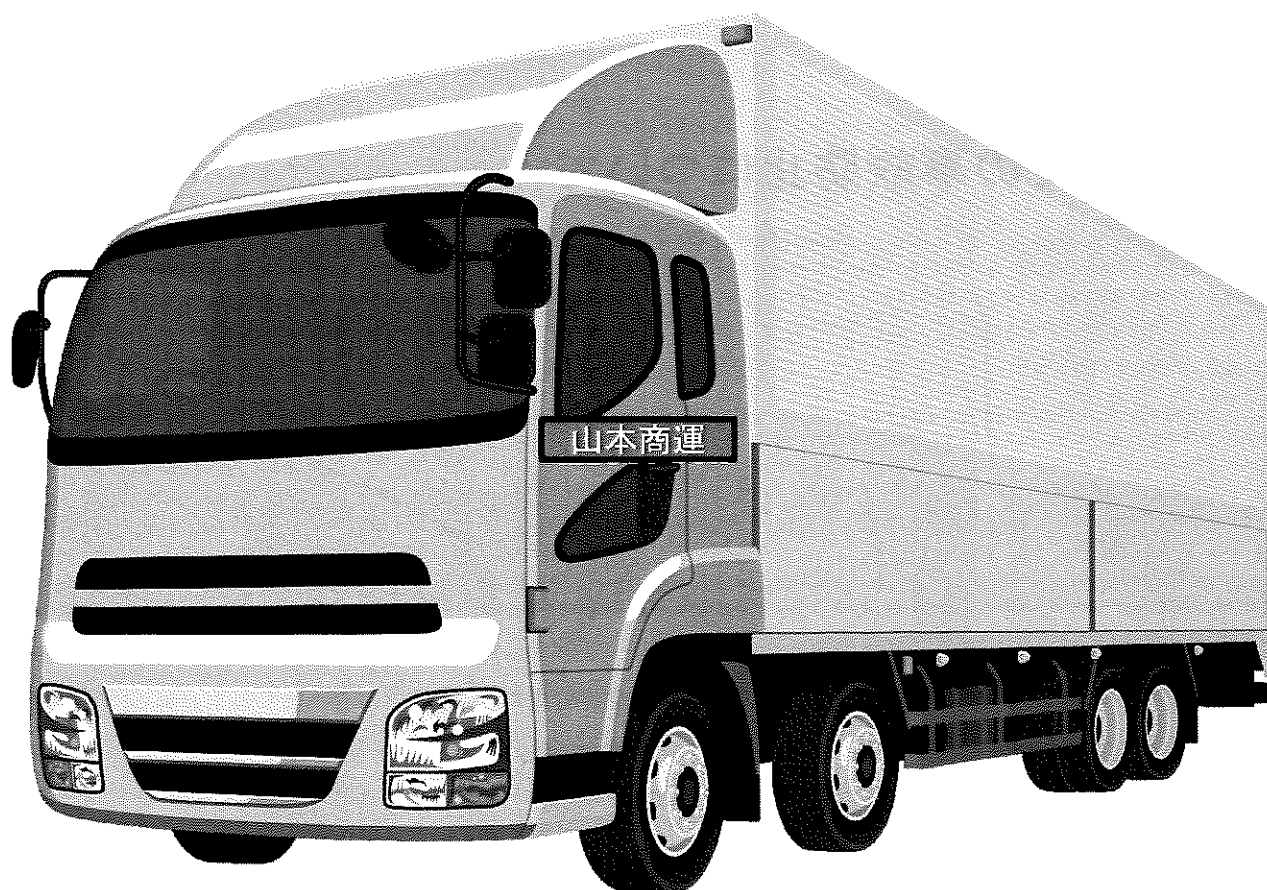


山本商運株式会社 様

安全運転講習会



有限会社やまと保険事務所
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

2019年11月9日(土)

目次

1. DVD視聴

冬道事故を防ぐ～危険な路面の見分け方～

2. 研修

冬道での事故防止について

冬道での事故防止について①

<こんな場所は要注意>

冬季は降雪地域や寒冷地でなくても、路面が凍結していることがあります。凍結路面は発見しにくい
ためスリップして初めて気づくということもよくあります。また、積雪をする地域では吹雪などの降雪
時以外でも視界が悪化することがあります。そこで今回は、凍結しやすい時と場所や、降雪以外で視
界が悪化する場を紹介するので、走行中にそのような場所や状況にさしかかったときは、十分に用心
して安全運転を心がけましょう。

路面が凍結しやすい時と場所

こんな場所が凍結しやすい

降雪地域や寒冷地でなくても、次のような場所は
路面が凍結しやすいといわれていますから、スピー
ドを落とす、前車との車間距離を長くするなど慎重
な運転を心がけましょう。

- ・橋の上
- ・トンネルの出入口
- ・切り通し（山や丘陵などの間を切り開いて通した
道）
- ・山間部などの日陰になっているところ

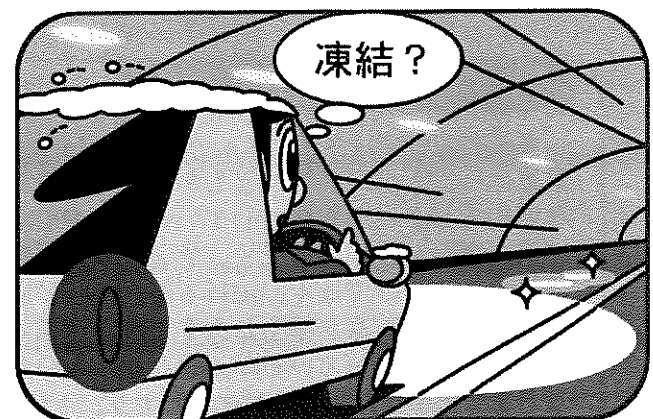
深夜から明け方は凍結しやすい

凍結路面は積雪路面よりもはるかに滑りやすいた
め、停止距離が長くなるだけでなく、ブレーキやハ
ンドル操作のわずかなミスがスリップを招く危険が
あります。しかも、凍結路面は見分けにくいために
発見も遅れがちになります。

気温の下がる深夜から明け方の時間帯や、雨が降
った後などは凍結しやすいので、路面の状態に十分
な注意が必要です。

トンネル内でも凍結していることがある

トンネルの中は雨も雪も降らないため、路面が凍
結することはないように思えますが、そうではあり
ません。走行車両の落とした雪がトンネル内で凍結
していることがあります。積雪地帯や降雪地帯のト
ンネルを走行するときは、路面の状態に注意を払い
ましょう。また、長いトンネルの場合は、入口と出
口の路面状態が変化していることがあります。入口
では凍結していなくても出口は凍結していること
がありますから注意しましょう。



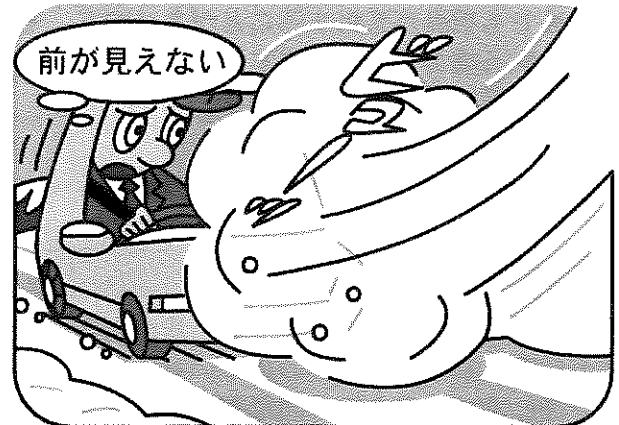
冬道での事故防止について①

<こんな場所は要注意>

降雪時以外で視界が悪化するとき

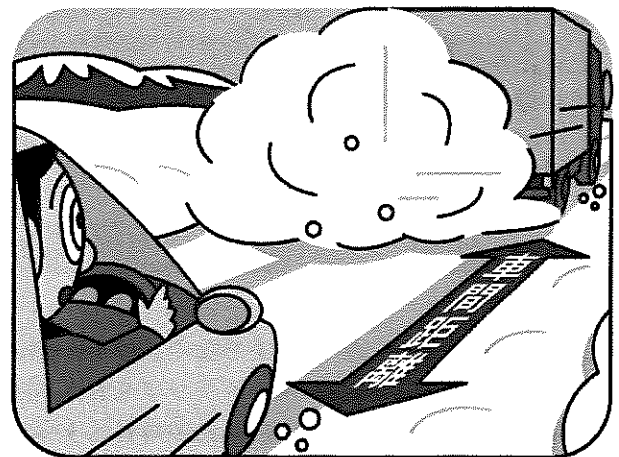
開けた場所では地吹雪が視界を遮る

道路の周囲に建造物や雑木林などのない開けた場所で雪が積もっているときは、強風が地面に積もった雪を吹き上げる「地吹雪」に注意が必要です。地吹雪は、道路には雪がない場合でも、道路の周囲が積雪していれば発生しますから、雪道ではないからといって安心はできません。特に防雪柵が設置されている場所は、地吹雪地帯であり、一見風がなく穏やかなように見えても、いきなり突風が吹いて地吹雪が舞いあがることがあります。激しい地吹雪に襲われると、前方がほとんど見えなくなり危険ですから、地吹雪が発生しそうな場所では、あらかじめスピードを落として慎重に走行しましょう。



前車や対向車などが舞い上げる雪煙が視界を遮る

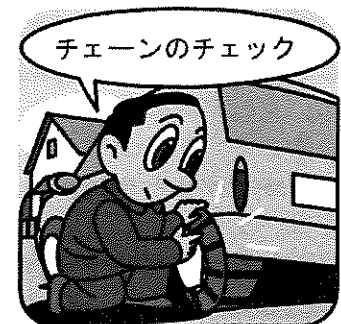
積雪した路面を走行するとき、前車や対向車、片側2車線道路で自車を追い抜く車などが舞い上げた雪煙で前方が見えなくなることがあります。特に相手がトラックなどの大型車の場合は雪煙が発生しやすくなります。先行車とは車間距離を十分にとり、すれ違うときや追い抜かれるときはハンドルをしっかり握り、雪煙に視界を遮られても決してあわてて急ブレーキをかけたりせず、落ち着いて視界が回復するのを待ちましょう。



※視界が悪いときには、前方をよく見ようと前かがみの姿勢になりがちです。このような姿勢では、とっさの場合にハンドルやブレーキ操作などを適切に行うことができず、操作ミスを誘発する危険がありますから、運転姿勢にも注意しましょう。

タイヤチェーンは冬季の必需品

冬季の走行ではタイヤチェーンは必需品です。雪の少ない地域でも、最近は大雪が降ることもあります。また、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを装着している場合でも、上り坂などではチェーンが必要なことがあります。チェーンの未装着はスリップ事故などにつながるだけでなく、走行不能となって立ち往生した場合には、それが原因で渋滞が発生し大きな混乱を招くおそれもあります。チェーンが車に入っているか、傷などはないか、正しく装着できるかなどをしっかりと確認しておきましょう。



冬道での事故防止について①

<こんな場所は要注意>



積雪・降雪路の危険性と安全走行のポイント

降雪時でなくても視界が悪くなることもある

降雪時は、前方の視界が悪くなるだけでなく、サイドミラーやリアウィンドーにも雪が付着するために後方や側方の視界も悪くなります。こまめにウインドーガラスやミラーの雪を取り除きましょう。

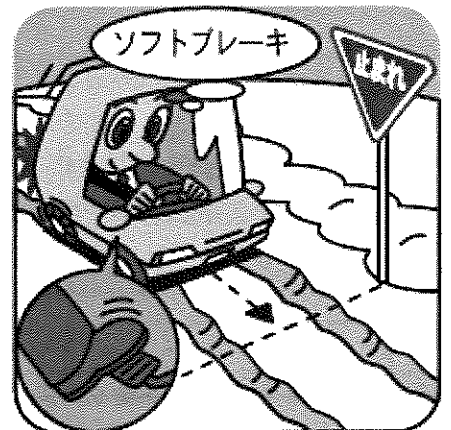
また、雪が降っていない場合でも、周囲に積もっている雪が強風にあおられて舞い上がり（これを「地吹雪」といいます）、前方の視界がさえぎられたり、対向してくる大型車が巻き上げる雪煙によって視界がさえぎられることがあります。地吹雪が予想される場所や、大型車が接近してきたときは、あらかじめワイパーを作動させるなどして視界の確保に努めましょう。

路面標示が見えなくなる

積雪路では、センターラインや一時停止線などの路面標示が見えなくなるだけでなく、車道と路肩や側溝の見分けもつかなくなります。そのため特にカーブでは対向車線にはみ出して対向車と衝突したり、左側に寄り過ぎて側溝に落ちてしまう危険がありますから、注意しましょう。

強いブレーキはスリップをまねく

積雪路や降雪路は停止距離が長くなります。そのため、前方の交差点が赤信号の場合や、見通しの悪い交差点に接近したときなどに減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点内に進入したり、信号待ちで停止している車に追突する危険があります。このようなときに、停止しようとしてブレーキを強く踏むと、スリップをまねく危険がありますから、赤信号の交差点や「止まれ」の標識のある交差点に接近するときは、あらかじめ減速して進行するとともに、ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにしましょう。



冬道での事故防止について②

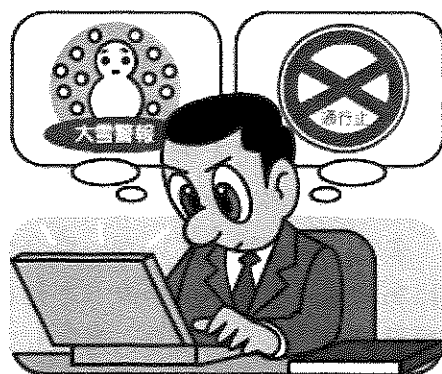
<事故防止のための対策>



出発前の準備

交通情報や気象情報を収集する

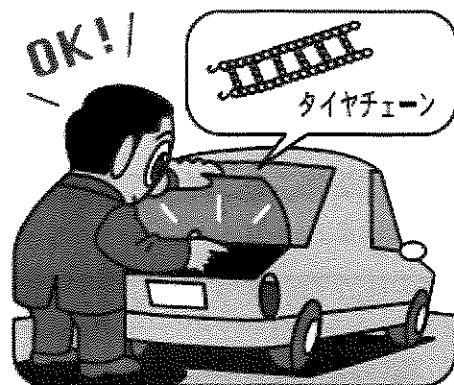
冬期は、降雪による通行止めや速度規制もありますから、出発前に、目的地方面の交通情報や気象情報を収集して、余裕のある走行計画を立てることが大切です。高速道路の場合は、東日本、中日本、西日本の各高速道路会社のホームページで、降雪等の気象状況や通行止め等の交通情報が掲載されていますので、それらの情報を事前にチェックしておきましょう。



タイヤや燃料等をチェックする

雪道や凍結路はブレーキをかけてから車が停止するまでの距離が長くなりますが、タイヤがすり減っていると一層停止距離が長くなります。出発前には、特にタイヤの摩耗状態をしっかりチェックするとともに、タイヤの空気圧や傷の有無、バッテリーやウォッシャー液などのチェックを行いましょう。

また、通行止めに遭遇したり、雪に閉じ込められて立ち往生するケースも起こり得ますが、そのようなときでも暖房を効かせるためにエンジンを切ることはできません。そのため予想外に燃料を消費するおそれがありますから、出発前に燃料が十分かどうかをチェックするとともに、早めの補給を心がけましょう。



タイヤチェーン等の携行品をチェックする

ノーマルタイヤの場合はタイヤチェーンが必需品ですが、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを装着している場合でも、天候や路面状況によってはタイヤチェーンが必要となる場合があります。冬期はタイヤの種類を問わず、タイヤチェーンを携行しましょう。

また、作業用の軍手や夜間作業のための懐中電灯、フロントガラスやワイパー、鍵穴などの凍結に備えて解氷スプレーなども用意しておくといよいでしょう。

積雪した場所で車に乗り込むときの留意点

車の屋根やボンネットに雪が積もっていたり、フロントガラスに雪や霜が付着している場合は、それらを取り除き、視界を確保することが大切です。

また、靴に雪が付着した状態でアクセルやブレーキを踏むと、足が滑ってペダルを踏み損ねるおそれがあります。車に乗り込むときは、靴に付着している雪をしっかり払い落としましょう。

冬道での事故防止について②

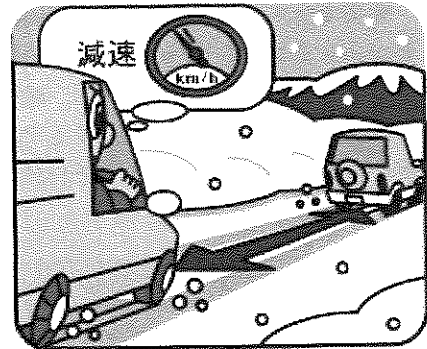
<事故防止のための対策>



冬期の安全走行のポイント

スピードを落とし車間距離をとる

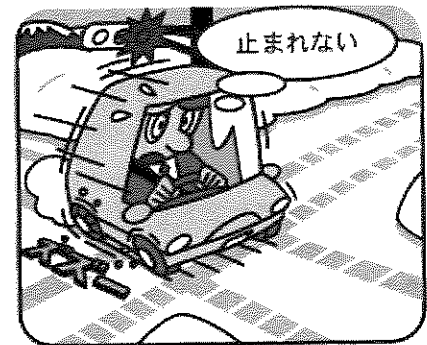
雪道ではスピードを落とし、車間距離を十分にとって走行する必要があります。積雪のない道路を走行している場合でも、橋の上やトンネルの出入り口や切り通し、濡れた路面の日陰の部分などは路面が凍結しているおそれがあります。また、雨や雪の降った日の深夜から明け方も路面凍結のおそれがありますから、スピードを落とすとして慎重に走行しましょう。



ブレーキはソフトに踏む

凍結路や積雪路で強くブレーキを踏むとスリップを招きやすいので、乾燥路と同じ感覚でブレーキを行うのは非常に危険です。ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにします。

また、急ハンドル、急ブレーキ、急発進、急加速などの「急」のつく運転もスリップの原因となりますから避けましょう。



停止するときは早めに減速する

雪道の交差点付近は、雪が踏み固められて滑りやすくなっています。そのため減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点内に進入してしまう危険があります。

前方の交差点が赤信号のために停止するときや、一時停止の標識により停止するときは、早めにブレーキを踏んで減速しましょう。

カーブでは手前で十分減速する

雪道のカーブはスリップしやすいので、カーブの手前であらかじめ十分に減速してからカーブに進入しましょう。

また、積雪のためセンターラインの見えないカーブでは、対向車線にはみ出さないよう十分注意しましょう。



トンネル内の部分凍結に注意する

トンネル内には積雪はありませんが、走行車両の落とした雪によって部分的に路面が凍結していることがありますから、路面の状態によく注意する必要があります。また、トンネルを出たとたんに雪道になっていることもありますから、出口に近づいたらトンネルの先の道路状況に十分注意しましょう。

視界が悪いときは避難場所に退避し様子を見る

激しい降雪や地吹雪などで前方が見えにくいときには、最寄りの避難場所（高速道路ではサービスエリア等）に退避し、安全な視界が確保できるまで待つことも重要です。

冬道での事故防止について②

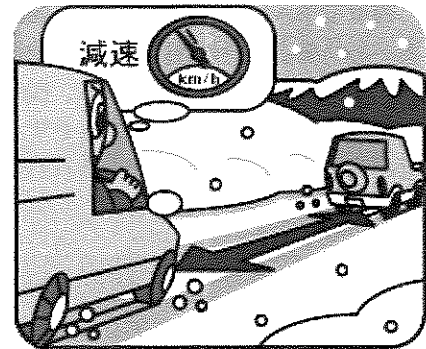
<事故防止のための対策>



冬期の安全走行のポイント

スピードを落とし車間距離をとる

雪道ではスピードを落とし、車間距離を十分にとって走行する必要があります。積雪のない道路を走行している場合でも、橋の上やトンネルの出入り口や切り通し、濡れた路面の日陰の部分などは路面が凍結しているおそれがあります。また、雨や雪の降った日の深夜から明け方も路面凍結のおそれがありますから、スピードを落として慎重に走行しましょう。



ブレーキはソフトに踏む

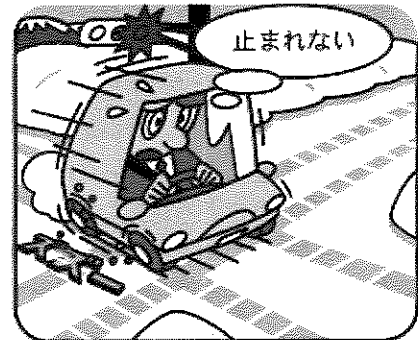
凍結路や積雪路で強くブレーキを踏むとスリップを招きやすいので、乾燥路と同じ感覚でブレーキを行うのは非常に危険です。ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにします。

また、急ハンドル、急ブレーキ、急発進、急加速などの「急」のつく運転もスリップの原因となりますから避けましょう。

停止するときは早めに減速する

雪道の交差点付近は、雪が踏み固められて滑りやすくなっています。そのため減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点内に入ってしまう危険があります。

前方の交差点が赤信号のために停止するときや、一時停止の標識により停止するときは、早めにブレーキを踏んで減速しましょう。



カーブでは手前で十分減速する

雪道のカーブはスリップしやすいので、カーブの手前であらかじめ十分に減速してからカーブに進入しましょう。

また、積雪のためセンターラインの見えないカーブでは、対向車線にはみ出さないよう十分注意しましょう。



トンネル内の部分凍結に注意する

トンネル内には積雪はありませんが、走行車両の落とした雪によって部分的に路面が凍結していることがありますから、路面の状態によく注意する必要があります。また、トンネルを出たとたん雪道になっていることもありますから、出口に近づいたらトンネルの先の道路状況に十分注意しましょう。

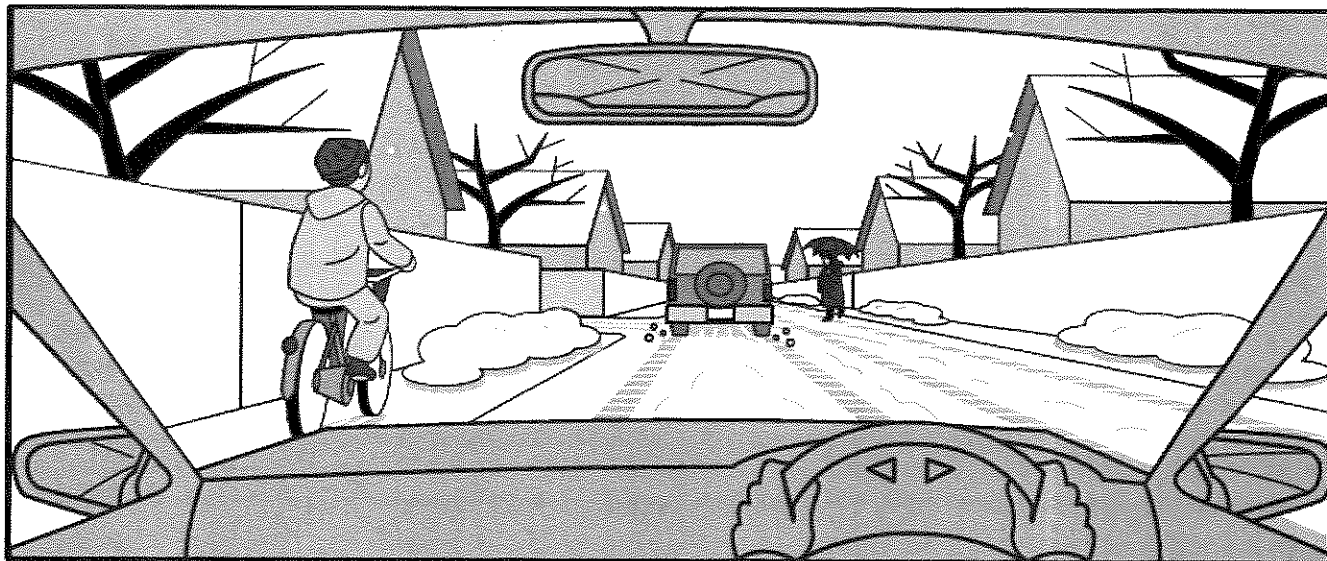
視界が悪いときは避難場所に退避し様子を見る

激しい降雪や地吹雪などで前方が見えにくいときには、最寄りの避難場所（高速道路ではサービスエリア等）に退避し、安全な視界が確保できるまで待つことも重要です。

冬道での事故防止について③

<ケーススタディ>

小雪の舞う雪道を走行しています。この場面にはどのような危険があるでしょうか。



主な危険の内容

この場面での主な危険をあげてみましょう(図1参照)。

- ① 前方左側の歩道を通行している自転車が前方の雪のかたまりを避けるために車道に進路を変えてくる。
※スリップして車道に出て来たり、車道に出た後に転倒する可能性があります。
- ② 前方左側の脇道から車などが飛び出してくる。
※積雪のために路面が滑りやすくなっており、手前で停止しようとしても停止できずに交差道路に進入してくる可能性があります。
- ③ 前方右側の歩行者が道路を横断してきたために、前車が停止する。
※歩行者がいなくても、雪でタイヤをとられるなどにより急停止する可能性があります。
- ④ 前車の通過後に、歩行者が道路を横断してくる。

雪道はスリップしやすいため、車にとって走りにくい道路ですが、歩行者や自転車にとっても同様にたいへん通行しにくい道路です。その点をしっかりと理解しておくことが大切です。

図1

